



# 防災システムの最大限の活用が本来の目的思う

内田精彦 議員

**町長** 多額な負担等精査して防災対策に対応する



**問** 停電の場合、有線放送はどうなるのか。

**答** 川本総務課長  
町内全域で各家庭が停電の時は放送を受信できない。親局のセンター設備は発電機で対応する。

**問** 停電の場合、行政デジタル無線はどうなるのか。

**答** 川本総務課長  
それぞれ非常用電源設備にて利用可能である。

**問** 大規模災害等による長時間停電時、住民への情報提供はどうするのか。

**答** 川本総務課長  
防災行政デジタル無線広報車より周知する。また県の防災システムによりラジオ事業者や携帯電話事業者に情報が提供されるので活用が可能である。



行政デジタル無線(ラッパ)

**問** 平成24年4月からのごみ袋有料化の効果は。

**答** 町内のごみ収集持ち込みによる排出量は、この3年間で11%減った。ごみ袋有料化前の平成23年度が4千283トンに対し有料化後の平成24年度4千10トン平成26年度が3千800トンと有料化前に比べ減少し、徐々に効果が出ている。

**問** 小袋のしぼり方は2カ所を結んで口を閉じて出す。大袋の燃やせる袋は袋の上を2、3回折り曲げて、両方を結ぶとなっている。2、3回折る分また両端を結ぶ分入れる量が少なくなり、そのため袋にごみをいっぱい

に入れ折り返しせずガムテープ等で封をして出す人がいる。そのためにごみの収集者はごみ袋を持つ取手がなく、苦勞しているが、このような状態を把握しているのか。

石原町民課長

**答** 般家庭では若干ある。事業所等ではごみを多く出す時に結ばずにガムテープで排出してある。特に支障があるとは確認していない。

表示されている通り出すことの徹底、または小袋のように2カ所結んで出す方法があるが、どう考えているのか。

石原町民課長

**答** 臭いの防止、ごみの飛散防止、収集業務の能力向上のためにも、袋の口を結んで出すよう広報啓発指導をする。また燃やせるごみ袋の形状変更については、住民の意見を聞いて検討したい。

奥出雲町グラウンド

**問** ルフ場の利用状況は。

森長地域振興課長

**答** 利用期間は4月～11月。



グラウンドゴルフ場待避所

平成26年度は約1千500人が利用。年間約20の大会の開催。最も多い大会は約250人である。

**問** 待避所が狭いと思うが増設ができないか。

**答** 大きな大会時には隣の農業研修施設活用で十分対応でき、増設は考えていない。

**問** Aコース、Bコース計18ホールあるが現在屋根付きの休憩所がない。建設できないか。

**答** 東屋(オアシス)につきましては、指定管理者と協議検討する。